

おさかな瓦版 No.35 サケ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水産総合研究センター メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2000338



おさかな瓦版

No. 35

2010.6

シリーズ：三陸のさかなたち 第2回

サケ



ふーちゃんのトピックス

世界で初めて!! ウナギの「完全養しよく」に成功しました



ふっくんのなんでもコーナー

ウナギの「完全養しよく」ってなあに?

サケ ~大きくなって戻ってこいよ~



📷 1. 上：鼻曲がり、オス、全長70センチ、体重3.5キロ
下：大人になる前のサケ、全長60センチ、体重2.5キロ

📷 2. はらこ飯
(写真提供：宮城県亘理町)

サケ(シロザケ、📷 1)は、北海道から東北地方、北陸地方など寒い地方を代表する魚です。水あげ量は北海道が約16万トンともっとも多く、次に多いのは岩手県、宮城県、青森県の順で、この3県をあわせて約4万トンと、三陸地方の重要な魚です。

サケを使った料理はたくさんあります。宮城県南部では、はらこ飯が有名です(📷

2)。はらこ飯はサケの身を煮た汁でたいたご飯に、煮た身とイクラを盛り付けたサケの親子丼で、おいしい料理です。

秋から冬にかけて、はるか北の海から産卵のために戻ってきたサケは、からだの色や形が変化します。からだは銀色から黒っぽくなり、赤いもようがでてきます。オスは、口先が伸びて曲がり「鼻曲がり」

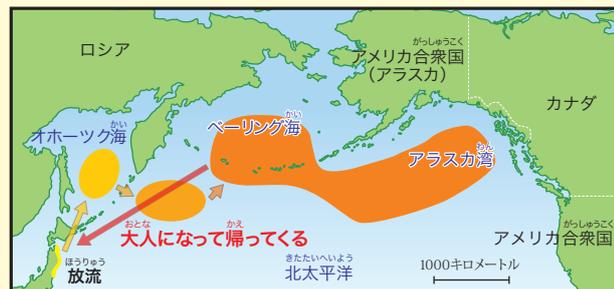


あんじいの
ワンポイント
アドバイス

サケの旅

春に放したサケの子どもたちは、三陸地方から約1,500キロはなれたオホーツク海に向かうんじや。ここで夏を過ごして、冬になると北太平洋に向かうんじや。次の年からは、三陸地方からはるか3,000キロ以上も遠いベーリング海やアラスカ湾で生活するんじや。ここで大人まで育つと、産卵のために生まれた川に戻ってくるんじや。

あんじい：ありとあらゆることを知っているナゾのさかな仙人です



と呼ばれます (📷 1)。この鼻曲がり(はなま)を塩(しお)づけにして干した新まきサケは、三陸地方(さんりくちほう)の特産品(とくさんひん)です。冬(ふゆ)になるとメスの新まきサケ(あらまきサケ)とともに、魚屋(さかなや)の店先(みせさき)にたくさんつる(たから)されています (📷 3)。また、明治時代(めいじじだい)を



📷 3. 店先につるされた新まきサケ

代表(だいひょう)する画家(が)が油絵(あぶらえ)を広(ひろ)めるために、新まきサケ(あらまきサケ)を描(えが)いた絵(え)は有名(ゆうめい)です (📷 4)。

サケ(さけ)が自然(しぜん)に産卵(さんらん)できる川(かわ)は、少(すく)なくなっ(な)っています。また、自然(しぜん)の川(かわ)では、無事(むじ)にふ化(ひか)して、海(うみ)まで行(い)ける子(こ)ども(わらわ)の割(わり)合(あ)いはとて(と)も低(ひく)いのです。そこ(そこ)で、秋(あき)に産卵(さんらん)のため(ため)に戻(もど)ってきたサケ(さけ)からと(と)った卵(たまご)を育(そだ)てていま(いま)す (📷 チェック)。

春(はる)になると子(こ)どもたち(たち)は全長(ぜんちよう)5センチ(センチ)に

育(そだ)ち、川(かわ)へ放(はな)され海(うみ)にで(で)ていま(いま)す (📷 表紙)。
海(うみ)にで(で)たサケ(さけ)の子(こ)ども(ども)は、はる(はる)か遠(とほ)くのベーリング(ベーリング)海(かい)やアラスカ(アラスカ)湾(わん)で3年(ねん)か(か)ら5年(ねん)生活(せいかつ)し、産卵(さんらん)のた(た)め秋(あき)から冬(ふゆ)にか(か)けて生(う)ま(ま)れた川(かわ)に戻(もど)ってき(き)ます (📷 あんじいのワンポイントアドバイス)。



日本(にほん)に戻(もど)ってくるサケ

の数(かず)は約(やく)6,300万匹(まんびき)で、40年(ねん)前(まえ)と比(くら)べる(べ)ると10倍(ばい)以上(じょう)に増(ふ)えました。さら(さら)にた(た)くさ(さ)ん戻(もど)ってくるよ(よ)うに、川(かわ)の水(みず)で育(そだ)てたあ(あ)と、海(うみ)のいけ(い)すで育(そだ)て、海(うみ)にな(な)らして(して)から放(はな)す方(ほう)法(ほう)も行(おこな)われていま(いま)す。

水産総合研究センター(すいさんそうごうけんきゅう)では、サケ(さけ)をこ(こ)れ(れ)から(か)もず(ず)っと食(た)べ続(つづ)けら(ら)れるよ(よ)うに、じ(じ)ょうぶ(ぶ)な子(こ)ども(ども)を育(そだ)てる研(けん)究(きゅう)を(を)していま(いま)す。さら(さら)に、た(た)くさ(さ)んの子(こ)ども(ども)たち(たち)が遠(とほ)くの海(うみ)へ元(げん)気(き)に旅(たび)立(だ)ち、大(おとな)にな(な)ってた(た)くさ(さ)ん戻(もど)って(て)くるた(た)めの研(けん)究(きゅう)にも取(と)り組(く)んでいま(いま)す。

(上原 伸二)



チェック

サケの子どもが育つまで



人工授精

メス(メス)の卵(たまご)にオス(オス)の精子(せいし)をかけて受(じゅ)精(せい)させ(させ)ます



5ミリ
受精卵(約7ミリ)



受精後25日目
目(め)ができてきました(矢印)



ふ化(ひか)した赤(あか)ちゃん、受(じゅ)精(せい)後(ご)
50日目(全長約3センチ)

大きなオレンジ色(いろ)の袋(ふくろ)には、えさ(えさ)を食(た)べるよ(よ)うにな(な)るま(ま)で栄(えい)養(よう)分(ぶん)が入(はい)っています



受精後150日目
(全長約5センチ)



ふーちゃんのトピックス

Fuchan's Topics

世界で初めて!!



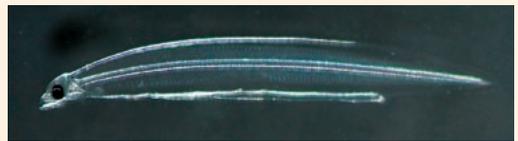
ウナギの「完全養しょく」に成功しました



シラスウナギ (全長6センチ)

水産総合研究センターは、世界で初めてウナギの「完全養

しょく」(ふっくん のなんでもコーナー)に成功しました。わたしたちが食べているウナギは、ほとんどが養しょくされたもので、それはすべて天然のシラスウ



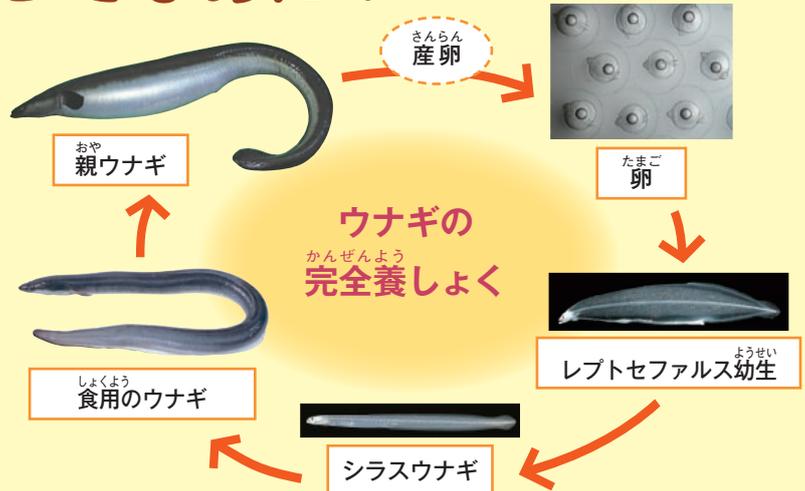
完全養しょくウナギのレプトセファルス幼生 (ふ化後60日目、全長2.5センチ)

ナギ (ウナギの子ども) を育てたものです。いま

では、シラスウナギのとれる量は、50年前の20分の1以下と少なくなっていました。このため、ウナギを人の手で卵から育てる研究をしています。

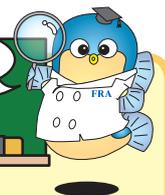
Q ウナギの「完全養しょく」ってなあに？

A 完全養しょくは、ウナギの一生(卵→レプトセファルス幼生→シラスウナギ→親ウナギ→産卵(卵))を人の手で管理することなんだよ。天然のシラスウナギを守るためにも大事なことなんだ。



ふっくんのなんでもコーナー

どんどん質問してね。ぼくが答えるよ!



ふーちゃん



ふっくん

あんじい仙人のもとで修行している研究員です

おさかな瓦版 No.35 (2010年6月発行)

編集・発行：独立行政法人 水産総合研究センター
質問の送り先・お問い合わせ先：広報室
〒220-6115 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3
クイーンズタワーB 15階
TEL. 045-227-2600 FAX. 045-227-2702
ホームページ <http://www.fra.affrc.go.jp/>

さかなやエビ、カニなどの水産動物や海藻のことでわからないことがあったら、広報室までハガキを送ってね。<聞きたいことの内容> <学年>、<住所>、<名前>を忘れずに書いてね。ふっくんが「なんでもコーナー」でお答えします。



表紙写真

旅立つサケの子どもたち